



コミュニティプランの策定にかかる住民アンケート調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): resident survey, life support needs, local city suburbs, community plans 作成者: 東根, ちよ, 竹川, 俊夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00017914

コミュニティプランの策定にかかる住民アンケート調査

東根 ちよ¹⁾ 竹川 俊夫²⁾

1) 大阪公立大学大学院現代システム科学研究科

2) 鳥取大学地域学部

要 旨

鳥取県南部町東西町地区において行ったコミュニティプランの策定にかかる住民アンケート調査から、地方都市郊外住宅地における住民実態、生活支援ニーズ、住民の意向を明らかにした。住民実態では、近所づきあいの希薄化とともに、近所の人との関わりを希望しながらも、関わりをもつことが出来ていない層に対する働きかけの必要性が見出された。生活支援ニーズでは、日常生活の買い物と移動手段の割合が高く、日常的な見守りはすべての住民層に共通するニーズとなっていた。住民の意向では、地域活動への協力意向と協力したい分野の動向に加え、生活環境の課題を考慮し、潜在的な住民の担い手の意向に応じる取り組みの必要性が示唆された。

キーワード：住民アンケート、生活支援ニーズ、地方都市郊外、コミュニティプラン

1. はじめに

人々のつながりの単位として地域に期待がよせられるなか、制度ごとの縦割りや支援する側とされる側の関係を超え、住民と専門機関の協働により包括的な支援体制をめざす「地域共生社会」に関する政策が全国の自治体で開始されている。2017年の社会福祉法改正により、各市町村においても急速に取り組みが進められているが、このような自治体レベルの取り組みとともに、小地域レベルから積み上げられるボトムアップの取り組みが求められる。そのようななか、本稿は、鳥取県南部町東西町地区で実施したコミュニティプランの策定にかかる住民アンケート調査から、地方都市郊外住宅地における住民実態、生活支援ニーズ、住民の意向を明らかにする。

鳥取県南部町では、2004年の市町村合併を契機に、住民組織としての自治会と社会教育を担う公民館を一体とした「地域振興協議会」による住民自治が進められており、町内には7つの地域振興協議会がある。また、各地域振興協議会では各地区の青写真となるコミュニティプランの策定（計画期間は5年）が行われており、2022年10月現在、すべての地域振興協議会で第3期のコミュニティプランにもとづく地域活動が展開されている。

とりわけ本稿の舞台となる東西町地区は、コミュニティプランの役割を重視した地域活動が積み上げられる地区である。2009年に第1期のコミュニティプラン（第1期地域づくり計画書）が策定され、第2期では進捗状況の見直しが行われたが、第3期においては子細な住民アンケート調査を実施し、地区の住民実態、生活支援ニーズ、住民の意向をふまえた策定を行うことになった。住民アンケート調査では、①東西町地域振興協議会に加入する住民、②東西町地域振興協議会に未加入の住民、③東西町地区からの転出者、④東西町地区の

小学生、⑤東西町地区のグループホーム入居者の各対象者別に計5種類を実施したが、このうち、本稿は「東西町地域振興協議会に加入する住民」の調査結果について報告する。

2. 調査の概要

(1) 東西町地区の概要

東西町地区は南部町の北部に位置し米子市に接している。米子市の中心部まで自動車です約10分の距離にあり、住民の多くが米子市をはじめ近隣への通勤者およびその退職者となっている。1968年～1970年にかけて米子ニュータウンとして宅地造成が行われると、1971年には子育て世代の入居により8戸から自治会が発足し、「住みよい町・子ども達のふる里づくり」をコンセプトとした地域活動が行われてきた。2007年に住民組織が東西町地域振興協議会へ移行してからは、高齢者のかたが日中過ごすことのできるコミュニティホームや放課後児童クラブを地区内で運営するほか、住民による防災体制は複数の表彰を受け、県内外から高く評価されている。

人口は1,140人、世帯数は471世帯、高齢化率は38%となっている（2021年10月31日時点）。総じて少子高齢化が進展しつつあるが他所からの転入者も多く、町内の他地区に比して人口減少のスピードは緩やかである。米子市へのアクセスが良い立地条件のほか、南部町の移住定住や子育て支援施策、東西町地域振興協議会による積極的な地域活動が相まって、2015年4月～2022年9月までの7年間で50代以下の構成員のいる世帯が62世帯（171人）転入しており、うち29世帯は18歳以下の子どもがいる世帯となっている¹⁾。

(2) 調査の方法

調査対象者は、東西町地域振興協議会に加入する中学生以上の住民である。東西町地域振興協議会のスタッフが戸別訪問し、中学生以上の世帯人数分のアンケート調査票を配布し、後日回収する留置法で実施した。調査期間は2019年8月7日から8月23日である。配布数903通、回収数443通、回収率49.0%であった。結果の分析にはExcelアンケート太閤Ver.5.5を用い、単純集計、クロス集計および解析を行った。

(3) 調査項目

調査項目は、「基本属性」「普段の生活状況」「地域活動への関わり」「生活の満足度と今後」の4項目であり、詳細は表1のとおりである。

表1 調査項目および設問

調査項目	設問		
1. 基本属性	問1 性別	問4 現在の社会的立場	問7 世帯人数
	問2 年代	問5 居住形態	問8 世帯主か否か
	問3 配偶者の有無	問6 居住年数	
2. 普段の生活状況	問9 同居家族との平日の会話時間	問17 近所の方との会話時間	
	問10 同居家族との休日の会話時間	問18 友人知人と会った回数	
	問11 一緒に食事をする平均人数	問19 友人知人との会話時間	
	問12 別居家族と会った回数	問20 連絡をとった友人知人の数	
	問13 別居家族との会話時間	問21 家族内の相談相手の有無	
	問14 近所との関わり	問22 家族内の一番の相談相手	
	問15 近所づきあいが無い理由	問23 家族以外の相談相手の有無	
	問16 近所の方と会った回数	問24 家族以外の相談相手	
3. 地域活動への関わり	問25 地域行事への参加状況	問28 地域行事への参加状況（65歳以上のみ）	
	問26 地域行事への参加状況（中学生・高校生・大学生のみ）		
	問27 地域での役割		
4. 生活の満足度と今後	問29 生活の満足度	問36 高齢者の優先課題	
	問30 生活の各項目の満足度	問37 子ども・子育て支援の優先課題	
	問31 移住意向	問38 障がいのある方の優先課題	
	問32 移住予定の時期	問39 地域活動への協力意向	
	問33 移住先の候補	問40 協力したい分野	
	問34 移住を考える理由	問41 自由記述	
	問35 生活環境の優先課題		

(4) 倫理的配慮

アンケート調査票の配布の際には、調査の目的（コミュニティプランの策定および調査研究）、個人が特定されることはないこと、回答は任意であること、協力の有無により不利益を被ることはないことを説明した。また、2人以上世帯の場合、アンケート調査票は各自回収用封筒に入れ、内容を互いに確認できないようにした。加えて、アンケート調査票の表紙に説明内容を漏れなく記載し、アンケート調査票への回答をもって同意を得たものとした。

なお、本調査は、鳥取大学地域学部人文社会科学研究所の倫理審査委員会による承認を得て実施している。

3. 調査結果

(1) 基本属性

回答者の基本属性は表2のとおりである。

年代は「60代」（29.3%）と「70代」（24.4%）が高く、60～70代が約半数を占めている。現在の社会的立場は「無職（年金生活者）」が37.7%であり、「会社員」（26.2%）が次いでいる。居住形態は「一戸建て（自己・家族所有）」（89.6%）が9割弱を占め、居住年数は「25年以上」（51.5%）が約半数となっている。世帯人数は「3人以上世帯」（47.0%）が約半数であるが、今後、高齢者の1人世帯や2人世帯の増加が予測される。

表2 回答者の基本属性

	n	%		n	%			
問1 性別	男	208	47.0	問5 居住形態	一戸建て（自己・家族所有）	397	89.6	
	女	233	52.6		一戸建て（借家）	16	3.6	
	その他	0	0.0		集合住宅（自己・家族所有）	19	4.3	
	不明	2	0.5		集合住宅（借家）	4	0.9	
	全体	443	100.0		その他	5	1.1	
問2 年代								
	10代	17	3.8	問6 居住年数	1年未満	15	3.4	
	20代	10	2.3		1年以上5年未満	40	9.0	
	30代	31	7.0		5年以上10年未満	41	9.3	
	40代	53	12.0		10年以上15年未満	43	9.7	
	50代	39	8.8		15年以上20年未満	23	5.2	
	60代	130	29.3		20年以上25年未満	42	9.5	
	70代	108	24.4		25年以上	228	51.5	
	80代	43	9.7		不明	11	2.5	
	90代	8	1.8		全体	443	100.0	
不明	4	0.9	問7 世帯人数		1人世帯	41	9.3	
全体	443	100.0		2人世帯	124	28.0		
問3 配偶者の有無	いる（既婚）	311		70.2	3人以上世帯	208	47.0	
	いない（離別・死別）	70		15.8	不明	70	15.8	
	いない（未婚・非婚）	56		12.6	全体	443	100.0	
	不明	6	1.4	問8 世帯主か否か	はい	182	41.1	
	全体	443	100.0		いいえ	184	41.5	
問4 現在の社会的立場	会社員	116	26.2		不明	77	17.4	
	公務員	10	2.3		全体	443	100.0	
	自営業	15	3.4		問9 現在の社会的立場	会社員	116	26.2
	会社役員	3	0.7			公務員	10	2.3
	農林漁業	2	0.5			自営業	15	3.4
	パート・アルバイト	63	14.2			会社役員	3	0.7
	学生	17	3.8	農林漁業		2	0.5	
	無職（専業主婦（夫））	36	8.1	パート・アルバイト		63	14.2	
	無職（年金生活者）	167	37.7	学生		17	3.8	
	その他	11	2.5	無職（専業主婦（夫））		36	8.1	
	不明	3	0.7	無職（年金生活者）		167	37.7	
	全体	443	100.0	その他		11	2.5	
			不明	3		0.7		
			全体	443		100.0		

(2) 普段の生活状況

普段の生活状況のうち、近所との関わりについては「挨拶する程度のつきあい」が71.3%と最も高く、「物の貸し借りや互いに行き来したりする」（13.5%）と「ほとんどつきあっていない」（5.9%）がつづいている

（図1）。近所との関わりについて、8割弱の人があまり関わっていない様子がうかがえる。

また、「挨拶する程度のつきあい」「ほとんどつきあっていない」と回答した人に「近所づきあいが無い理由」を尋ねたところ、「家をあけることが多く、知り合う機会がない」が47.4%と最も高い一方で、「近所づきあいはしたいが、消極的になってしまう」（19.6%）も2割弱となっている（図2）。

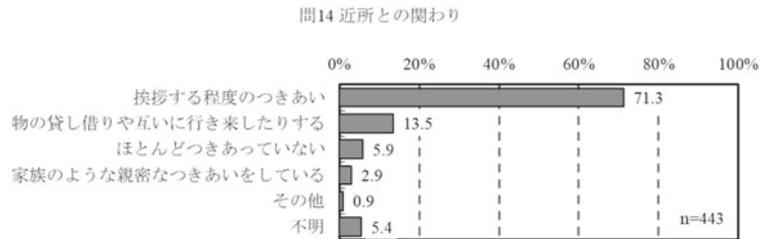


図1 近所との関わり



図2 近所づきあいが無い理由

(3) 地域活動への関わり

東西町地区のすべての住民を対象とする地域行事への関わりについて、「参加したことがある」「よく参加している」と回答した人の割合は「春・秋の一斉清掃」が86.2%と最も高く、「さつき祭・夏祭り」（68.2%）と「運動会・スポーツ大会」（62.6%）がつづいている（図3）。

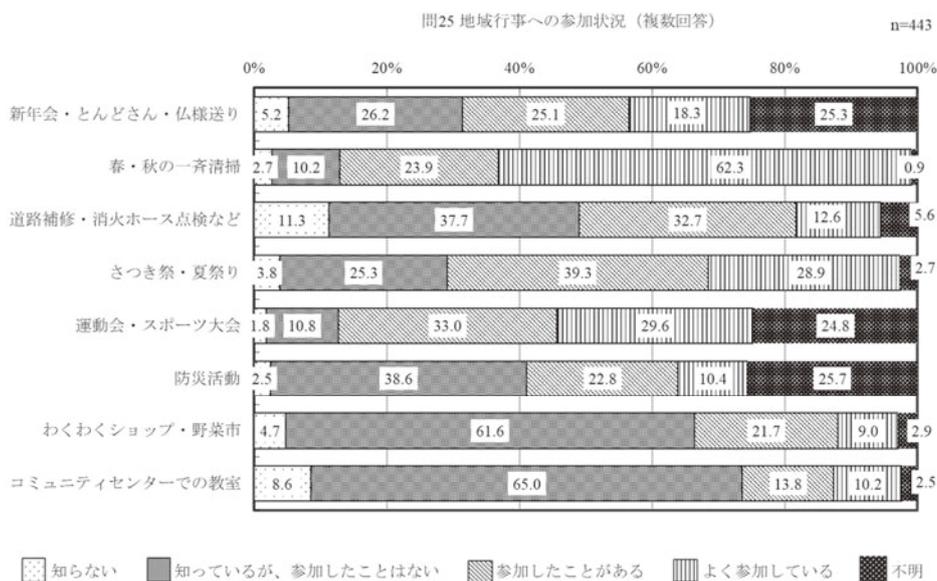


図3 地域行事への参加状況（複数回答）

(4) 生活の満足度と今後

東西町地区での生活全般への満足度は「満足」「やや満足」と回答した人の割合が32.9%と最も高く、「どちらともいえない」(32.1%)と「不満」「やや不満」(12.0%)がつづいている（図4）。生活全般について不満を感じている人は、約1割で低い割合となっている。

図5から、生活の各項目の満足度をみると、「不満」（「不満」「やや不満」の割合で算出）と回答した人の割合が高いのは「生活必需品の買い物の利便性」（60.3%）、「公共交通の利便性」（37.7%）となっており、日常生活の移動・交通手段の問題が課題として認識されている。また、「満足」（「満足」「やや満足」の割合で算出）と回答した人の割合が高いのは「自然災害の少なさ」（40.0%）、「自然環境」（37.7%）、「治安」（34.8%）、「住民のあたたかさ」（32.5%）、「地域振興協議会の活動」（31.6%）となっており、これらの項目は3割以上の人が満足している。

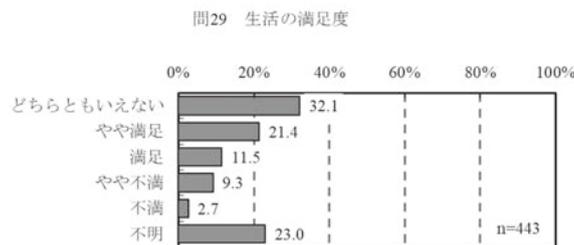


図4 生活の満足度

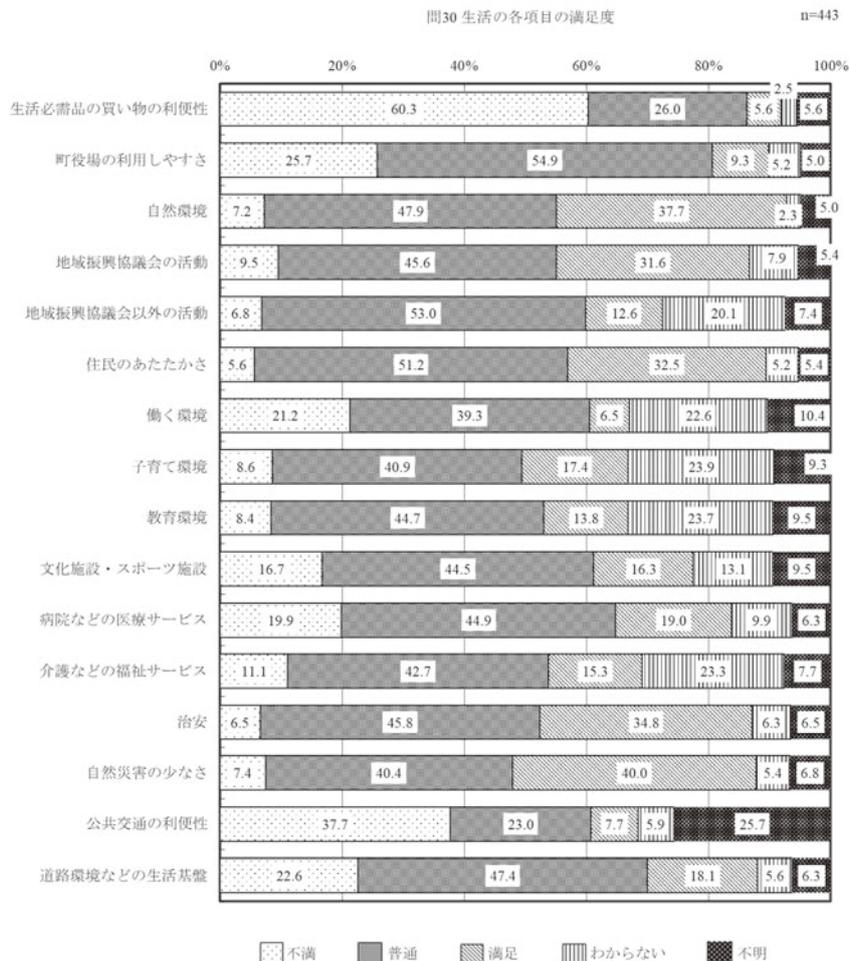


図5 生活の各項目の満足度

つぎに、他地域への移住意向について確認する（表3）。

移住意向については「定住したい」が60.9%と最も高く、「移住したい」（9.7%）と「定住したいが移住せざるを得ない」（8.4%）がつづいている。

また、「移住したい」「定住したいが移住せざるを得ない」と回答した人に「移住予定の時期」を尋ねたところ、「分からない」が52.5%と最も高く、「5年以内」（21.3%）と「5～10年後」（12.5%）がつづいている。移住時期を決めている人は、比較的早い時期の移住を検討している様子が見える。移住先の候補については「現時点では未定」が42.5%と最も高く、「鳥取県内」（31.3%）が次いでいる。移住先の候補を決めている人は、鳥取県内（31.3%）が鳥取県外（8.8%）に比べ大幅に高い割合である。移住を考える理由については「生活環境をよくすること」が40.0%と最も高く、「健康上の理由」（25.0%）と「仕事上の都合」（21.3%）がつづいている。

移住意向について近所との関わり別にみると、「ほとんどつきあっていない」人は、それ以外の人に比べ移住意向が高くなっている（表4）。そのほか、生活全般の満足度別にみると、東西町地区での生活に不満を感じている人ほど移住意向が高くなる傾向にある（表5）。加えて、生活の各項目の満足度別にみると、「子育て環境」および「教育環境」に不満を感じている人は、それ以外の人に比べ20ポイント近く移住意向が高くなっている（表6、7）。

表3 移住意向

		n	%			n	%
問31 移住意向	移住したい	43	9.7	問34 移住を考える理由 (複数回答)	仕事上の都合	17	21.3
	定住したいが移住せざるを得ない	37	8.4		教育上の都合	4	5.0
	定住したい	270	60.9		結婚	1	1.3
	移住したいが定住せざるを得ない	27	6.1		子どもが生まれる、または生まれる予定がある	1	1.3
	その他	31	7.0		離婚・死別など	3	3.8
	不明	35	7.9		子育て環境をよくすること	0	0.0
	全体	443	100.0		健康上の理由	20	25.0
問32 移住予定の時期	5年以内	17	21.3		親からの独立	7	8.8
	5～10年後	10	12.5		通勤・通学の利便性を高めること	8	10.0
	10～15年後	1	1.3		住宅の都合	4	5.0
	15年以上	0	0.0		生活環境をよくすること	32	40.0
	分からない	42	52.5		親との同居、または近くに住む必要があること	3	3.8
	その他	4	5.0		その他	12	15.0
	不明	6	7.5		不明	10	12.5
	全体	80	100.0	全体	80	100.0	
問33 移住先の候補	鳥取県内	25	31.3				
	鳥取県外	7	8.8				
	現時点では未定	34	42.5				
	不明	14	17.5				
	全体	80	100.0				

表4 近所との関わりと移住意向のクロス集計

	合計	問31 移住意向						
		移住したい	定住したい が移住せざる を得ない	定住したい	移住したい が定住せざる を得ない	その他	不明	
全体	443	9.7	8.4	60.9	6.1	7.0	7.9	
近所との関わり	家族のような親密なつきあいをしている	13	0.0	7.7	61.5	0.0	7.7	23.1
	物の貸し借りや互に行き来したりする	60	6.7	11.7	68.3	8.3	1.7	3.3
	挨拶する程度のつきあい	316	9.2	8.5	62.0	6.3	7.6	6.3
	ほとんどつきあっていない	26	26.9	3.8	42.3	7.7	11.5	7.7
	その他	4	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0

表5 生活の満足度と移住意向のクロス集計

	合計	問31 移住意向					その他	不明
		移住したい	定住したい が移住せざるを得ない	定住したい	移住したい が定住せざるを得ない			
全体	443	9.7	8.4	60.9	6.1	7.0	7.9	
生活の満足度								
不満	12	58.3	8.3	25.0	0.0	0.0	8.3	
やや不満	41	14.6	7.3	46.3	19.5	12.2	0.0	
どちらともいえない	142	12.7	9.2	59.2	4.9	8.5	5.6	
やや満足	95	3.2	6.3	75.8	2.1	7.4	5.3	
満足	51	2.0	3.9	74.5	2.0	5.9	11.8	

表6 子育て環境の満足度と移住意向のクロス集計

	合計	問31 移住意向					その他	不明
		移住したい	定住したい が移住せざるを得ない	定住したい	移住したい が定住せざるを得ない			
全体	443	9.7	8.4	60.9	6.1	7.0	7.9	
子育て環境								
不満	7	28.6	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	
やや不満	31	22.6	6.5	51.6	6.5	12.9	0.0	
普通	181	7.2	8.8	65.2	8.3	7.7	2.8	
やや満足	42	4.8	2.4	85.7	0.0	2.4	4.8	
満足	35	5.7	14.3	74.3	0.0	0.0	5.7	
わからない	106	13.2	10.4	51.9	7.5	10.4	6.6	

表7 教育環境の満足度と移住意向のクロス集計

	合計	問31 移住意向					その他	不明
		移住したい	定住したい が移住せざるを得ない	定住したい	移住したい が定住せざるを得ない			
全体	443	9.7	8.4	60.9	6.1	7.0	7.9	
教育環境								
不満	7	28.6	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	
やや不満	30	23.3	6.7	50.0	6.7	13.3	0.0	
普通	198	6.6	8.1	67.7	7.6	7.1	3.0	
やや満足	38	5.3	10.5	73.7	5.3	2.6	2.6	
満足	23	8.7	13.0	69.6	0.0	0.0	8.7	
わからない	105	13.3	10.5	53.3	5.7	10.5	6.7	

つづいて、生活環境の優先課題では「買い物するためのスーパーや商業施設」（66.6％）が最も高く、「買い物・通院などの移動手段の確保」（55.3％）と「医療に関わる病院やサービス」（20.8％）がつづき、これら上位3位に次いで「地域づくりを担う次世代リーダーの育成」（17.8％）となっている（図6）。

高齢者の優先課題では「一人暮らし高齢者などへの日常的な見守り」（31.2％）が最も高く、「通院、買い物などの外出の同行支援」（23.7％）と「掃除・洗濯・ゴミ出しなどの日常生活の支援」（20.3％）がつづいている（図7）。

子ども・子育て支援の優先課題では、「公園など、子どもの遊び場の確保」（34.5％）が最も高く、「登下校時など、日常的な見守りや声かけの充実」（19.9％）と「特になし」（18.7％）がつづいている（図8）。一方、子ども・子育て支援の優先課題について、子育て世帯（n=37）の回答に限ると、「登下校時など、日常的な見守りや声かけの充実」（29.7％）が最も高く、「子どもが参加できる地域行事の充実」および「貧困や孤立状態にある子どもたちの居場所づくり」が21.6％とつづき、住民全体の回答と子育て世帯に限った回答では優先課題の順位に差が見られた。

障がいのある方の優先課題では、「自宅で生活するための訪問型サービスの充実」（21.0％）が最も高く、「掃除・洗濯・ゴミ出しなど、日常生活の支援」（20.5％）と「日常的な見守りや声かけの充実」（20.3％）がつづいている（図9）。

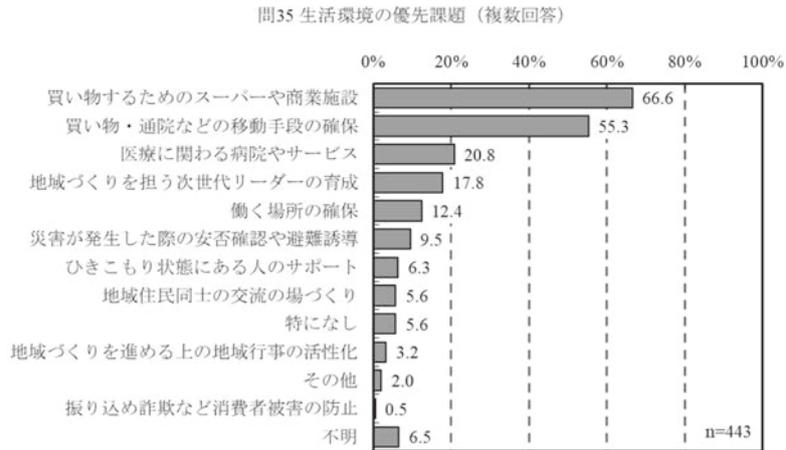


図6 生活環境の優先課題（複数回答）

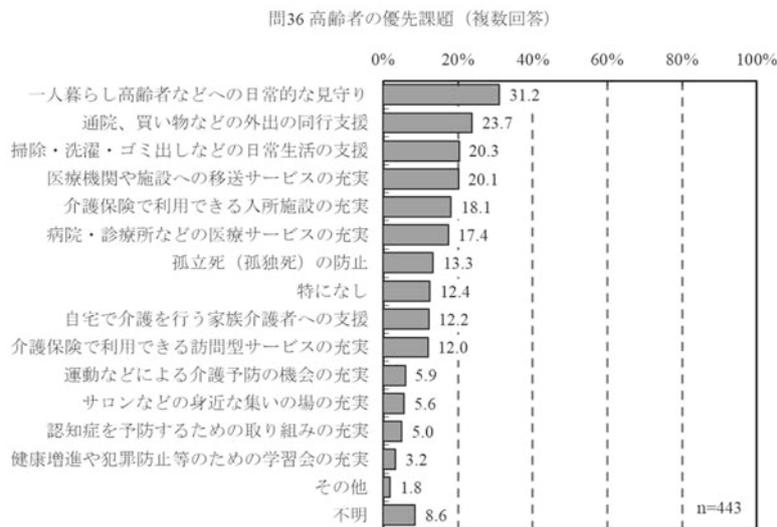


図7 高齢者の優先課題（複数回答）



図8 子ども・子育て支援の優先課題（複数回答）

問38 障がいのある方の優先課題（複数回答）

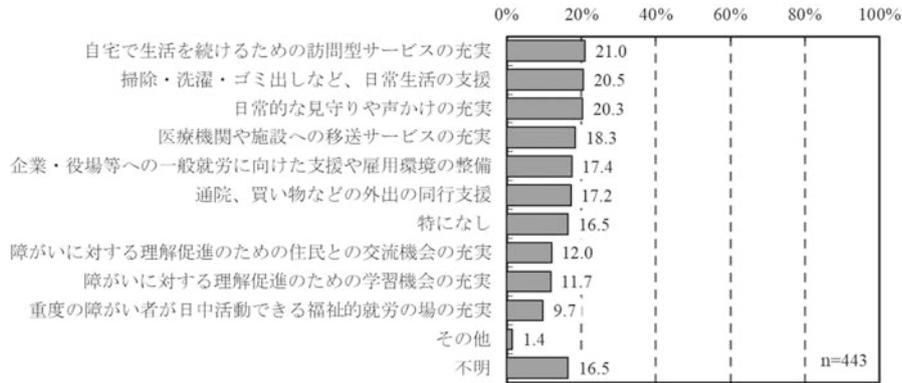


図9 障がいのある方の優先課題（複数回答）

さいごに、地域活動への協力意向では「協力したいが、仕事や家庭の事情などにより協力困難」（38.6%）が最も高く、「内容等によっては協力したい」（33.4%）と「協力したい」（7.0%）がつついている。「協力したくない」と回答した人の割合はわずか3.4%であり、総じて協力意向が高い。

また、「協力したい」「内容等によっては協力したい」と回答した人に「協力したい分野」を尋ねたところ、「地域行事やイベント等、地域住民が交流する場づくり」（45.1%）が最も高く、「高齢者の生活課題を解決するための活動」（30.8%）と「運動やスポーツに関するレクリエーションの機会」（27.5%）がつついている。

問39 地域活動への協力意向

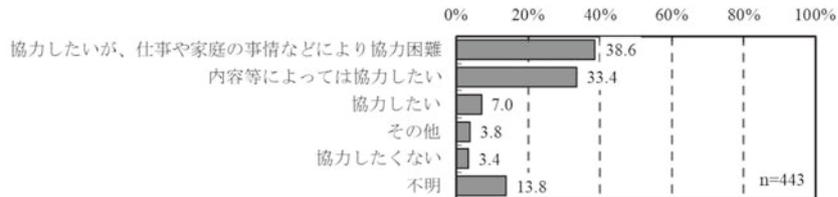


図10 地域活動への協力意向

問40 協力したい分野（複数回答）

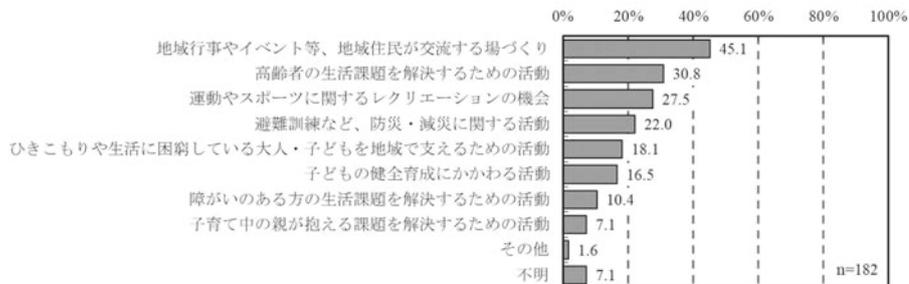


図11 協力したい分野（複数回答）

4. まとめ

(1) 近所づきあいの希薄化と内実

回答者の属性では、居住形態は「一戸建て（自己・家族所有）」が9割弱を占め、居住年数は「25年以上」が5割以上であり、定住意向も約6割と高いが、このように住民の定着度が比較的高い東西町地区においても、8割弱の人が近所の人とあまり関わりのない状況が明らかになった。一方、近所づきあいが無い理由として2割弱の人が「近所づきあいはしたいが、消極的になってしまう」と回答しており、近所の人との関わりを希望しながらも、関わりをもつことが出来ない層に対する働きかけの必要性が見出された。

(2) 生活環境の課題

東西町地区での生活全般に不満を感じている人は約1割と低い割合だが、各項目別にみると、日常生活の買い物と公共交通の問題で不満の割合が高くなり、双方は若年層も含めすべての住民層に共通した問題であることが明らかになった。また、生活環境の優先課題としても、日常生活の買い物と移動手段を指摘する割合が高くなっており、同様の傾向がみられた。さらには、東西町地区から他地域への移住意向をもつ人は、その理由として「生活環境をよくすること」をあげる割合が最も高く、これらの課題は移住の一要因となっている様子がうかがえた。

また、高齢者の優先課題に限ると、日常的な見守りが上位1位となり、日常生活の支援も上位となる。この点については、障がいのある方の優先課題においても同様の傾向がみられた。とりわけ、日常的な見守りについては、子ども・子育て支援の優先課題でも上位2位となり、子育て世帯の回答に限ると上位1位となっていた。このことから、日常的な見守りは多くの住民層に共通するニーズとなっていることが分かる。

生活環境については以上のような課題がある一方、自然災害の少なさ、自然環境や治安のほか、住民のあたたかさや地域振興協議会の活動については満足の割合が高かった。自然豊かな住環境や住民活動に関しては、東西町地区のよい点として認識されている様子がうかがえた。

(3) 今後の意向

東西町地区での定住を希望する人の割合は約6割と高いが、「定住したいが移住せざるを得ない」と回答した消極的な転出希望者が8.4%となっており、「移住したい」と回答した積極的な転出希望者（9.7%）と同程度存在することが明らかになった。そのため、今後はこのような消極的な転出希望者に対する働きかけの必要性が認識された。

また、地域活動への協力意向については、「内容等によっては協力したい」（33.4%）と回答した層に対する働きかけの必要性が認識された。加えて、地域活動で協力したい分野では、交流の場づくりやレクリエーションなどのイベント型の取り組みとともに、高齢者を支えるための活動への協力意向の高さが特徴であった。このような地域活動への協力意向と協力したい分野の動向に加え、生活環境の課題を考慮しながら、協力意向をもつ潜在的な住民の意向に応じる取り組みが必要だと考えられる。

本稿では、鳥取県南部町東西町地区で実施したコミュニティプランの策定にかかる住民アンケート調査から、地方都市郊外住宅地における住民実態、生活支援ニーズ、住民の意向について明らかにした。なお、自由記述を含めたさらなる分析と、本アンケート調査結果をふまえたコミュニティプランの策定およびその後の展開の検討は今後の課題としたい。

注釈

- 1) 東西町地域振興協議会からの提供データにもとづく

Results of resident survey on the development of community plans

Chiyo Higashine¹⁾, Toshio Takegawa²⁾

1) Osaka Metropolitan University

2) Tottori University

Abstract

A questionnaire survey of residents in the Tozai-cho area of Nanbu-cho, Tottori Prefecture, Japan, on the formulation of a community plan revealed the actual situation of residents, their livelihood support needs and, their intentions in a suburban area of a provincial city where the population is declining. The actual situation of the residents disclosed that neighborhood interaction is becoming weaker and that there is a need to reach out to those who wish to get involved with their neighbors but are unable to do so. Daily shopping and transport were prominent issues among the livelihood support needs, with daily care of people a common need for all resident groups. Residents' feedback suggest the need for initiatives that respond to the intentions of potential residents, considering trends in the willingness to cooperate in community activities and the areas in which they would like to cooperate, as well as the challenges of their living environment.

Key Words: resident survey, life support needs, local city suburbs, community plans

